

平成26年度病虫害発生予察予報第4号(7月)

平成26年7月4日  
高知県病虫害防除所

《予報の概要》

作物名	病虫害名	予想発生量
水稻(早期稲)	いもち病(穂いもち) ツマグロヨコバイ セジロウンカ トビイロウンカ ヒメトビウンカ	<b>やや多</b> 平年並 平年並 少 <b>多</b>
水稻(普通期稲)	いもち病 ツマグロヨコバイ セジロウンカ ヒメトビウンカ トビイロウンカ	<b>やや多</b> 平年並 平年並 <b>多</b> 少
カンキツ	そうか病 黒点病 かいよう病 ミカンハダニ カメムシ類	<b>やや多</b> 平年並 やや少 やや少～平年並 <b>多</b>

## I 気象予報(高松地方気象台6月26日発表)

<予想される向こう1か月の天候> 6月28日から7月27日

向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と特徴のある気温、降水量、日照時間の確率は以下のとおりです。

期間の前半は、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。期間の後半は、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

向こう1か月の降水量は、平年並または多い確率ともに40%です。日照時間は、平年並または少ない確率ともに40%です。

週別の気温は、1週目は、平年並の確率50%です。

<確率>

(単位:%)

期 間	要 素	予報対象地 域	低 い (少ない)	平 年 並	高 い (多 い)
1か月	気 温	四国地方	30	40	40
	降 水 量		20	40	40
	日 照 時 間		40	40	20
1週目	気 温	四国地方	30	50	20
2週目			30	40	30
3~4週目			30	30	40

<予報の対象期間>

1か月 : 6月28日(土)~ 7月27日(日)

1週目 : 6月28日(土)~ 7月 4日(金)

2週目: 7月 5日(土)~ 7月11日(金)

3~4週目: 7月12日(土)~7月25日(金)

## II 病虫害発生予想

### 1. 水稻(早期稲)の病虫害

#### 1) いもち病(穂いもち)

予 想 発生時期:平年並 / 発生量:やや多

根 拠

(1)6月の巡回調査における葉いもち発生は全般的には平年並の発生、中西部では多発生であったが初期病斑中心の発生であった。

(2)向こう1か月予報によると曇雨天が多いと予想されるため、やや多めの発生になると予想される。

対 策

(1)進行型病斑が多い場合、穂ばらみ期、穂揃期の2回、他作物への飛散防止に努めながら薬剤防除を実施する。なお、QoI 剤耐性いもち病菌の発生を回避するため、これらの剤の使用は作期を通じて1回とする。

(2)窒素過多はいもち病の発生を助長するので、穂肥の施用は稲の生育状況を見ながら適切に行う。

## 2) ツマグロヨコバイ

**予想** 発生時期: 平年並 / 発生量: 平年並  
**根拠**

- (1) 6月の巡回調査では全般的に少発生である。
- (2) 今後の気象予報からは急激な増加はなく、平年並の発生になると予想される。

### 対策

- (1) 近年、萎縮病の発生はほとんどないため、低密度時は薬剤散布は必要ないが、出穂期以降に高密度となると、実入りが悪化することがあるので、その場合は周辺作物への飛散防止に努めながら薬剤防除を行う。

## 3) セジロウンカ

**予想** 発生時期: 平年並 / 発生量: 平年並  
**根拠**

- (1) 6月の巡回調査では県下全域で発生が見られているが、ほ場内での密度は低い。
- (2) 梅雨前線の北上に伴い飛来量が増加することが予想されるが、現在の発生状況から平年並の発生になると予想される。

### 対策

- (1) 異常飛来等で、成虫数が株当たり5頭以上になったときは、周辺作物への飛散防止に努めながら薬剤防除を行う。

## 4) トビイロウンカ

**予想** 発生時期: 平年並 / 発生量: 少  
**根拠**

- (1) 6月の巡回調査ではほ場での発生が見られていない。また、予察灯への誘殺も確認されていない。
- (2) 梅雨前線の北上に伴い、飛来する可能性が高くなるが、現在の発生状況から少発生になると予想される。

### 対策

- (1) 高密度になると坪枯れが発生するので、飛来が確認されたら、周辺作物への飛散防止に努めながら速やかに薬剤防除を行う。

## 5) ヒメトビウンカ

**予想** 発生時期: やや早い / 発生量: 多  
**根拠**

- (1) 6月の巡回調査では中央部、中西部、西部で多発生であり、多発傾向が続くと予想される。

### 対策

- (1) 成虫数が株当たり5頭以上になったときは、周辺作物への飛散防止に努めながら薬剤防除を行う。

## 2. 水稻(普通期稲)の病害虫

### 1) いもち病

**予想** 発生時期: 平年並 / 発生量: やや多  
**根拠**

- (1) 6月の巡回調査では中西部で多発生であったが初期病斑中心の発生であった。
- (2) 向こう1か月予報によると曇雨天が多いと予想されるため、やや多めの発生になると予想される。

### 対策

- (1) 進行型病斑が見られるほ場では周辺作物への飛散防止に努めながら、薬剤防除を行う。
- (2) 適正な肥培管理を行い、窒素過多を避ける。

## 2) ツマグロヨコバイ

**予 想** 発生時期: 平年並 / 発生量: 平年並

### 根 拠

- (1) 6月の巡回調査では全般的に少発生である。
- (2) 今後の気象予報からは急激な増加はなく、平年並の発生になると予想される。

### 対 策

- (1) 近年、萎縮病の発生はほとんどないため、低密度時は薬剤散布は必要ないが、出穂期以降に高密度となると、実入りが悪化することがあるので、その場合は周辺作物への飛散防止に努めながら薬剤防除を行う。

## 3) セジロウンカ

**予 想** 発生時期: 平年並 / 発生量: 平年並

### 根 拠

- (1) 6月の巡回調査では県下全域で発生が見られているが、ほ場内での密度は低い。
- (2) 梅雨前線の北上に伴い、飛来量が多くなることが予想されるが、現在の発生状況から平年並の発生になると予想される。

### 対 策

- (1) 異常飛来等で、成虫数が株当たり5頭以上になったときは、周辺作物への飛散防止に努めながら薬剤防除を行う。

## 4) ヒメトビウンカ

**予 想** 発生時期: やや早い / 発生量: 平年並

### 根 拠

- (1) 6月の巡回調査では中央部、西部で多発生であり、多発傾向が続くと予想される。

### 対 策

- (1) 成虫数が株当たり5頭以上になったときは、周辺作物への飛散防止に努めながら薬剤防除を行う。

## 5) トビイロウンカ

**予 想** 発生時期: 平年並 / 発生量: 少

### 根 拠

- (1) 6月の巡回調査ではほ場での発生が見られていない。また、予察灯への誘殺も確認されていない。
- (2) 梅雨前線の北上に伴い、飛来する可能性が高くなるが、現在の発生状況から少発生になると予想される。

### 対 策

- (1) 高密度になると坪枯れが発生するので、飛来が確認されたら、周辺作物への飛散防止に努めながら速やかに薬剤防除を行う。

## 3. カンキツの病害虫

### 1) そうか病

**予 想** 発生時期: 平年並 / 発生量: やや多

### 根 拠

- (1) 6月の巡回調査では温州みかんでは平年並、中晩柑類では少発生であったが、向こう1か月予報によると、曇雨天が多いことが予想されることから、今後の発生は増加傾向で推移すると予想される。

### 対 策

- (1) 窒素過多にならないよう肥培管理を行うとともに、降雨後の薬剤防除を徹底する。

## 2) 黒点病

**予想** 発生時期: 平年並 / 発生量: 平年並  
**根拠**

(1)6月の巡回調査では温州みかん、中晩柑類とも少なめの発生であったが、向こう1か月予報によると、曇雨天が多いことが予想されることから、今後の発生は増加傾向で推移すると予想される。

### 対策

- (1) 枯れ枝、剪定枝を樹園地内に放置しない。
- (2) 累積降水量、250～300mmを目処に薬剤防除を行う。

## 3) かいよう病

**予想** 発生時期: やや遅い / 発生量: やや少  
**根拠**

(1)6月の巡回調査では温州みかん、中晩柑類とも少発生であったが、向こう1か月予報によると、曇雨天が多いことが予想されることから、今後の発生は増加傾向で推移すると予想される。

### 対策

- (1) ミカンハモグリガの食害や風ずれによってできた傷口が多いと発生が多くなるので、ミカンハモグリガの防除を行う。

## 4) ミカンハダニ

**予想** 発生時期: 平年並 / 発生量: やや少～平年並  
**根拠**

- (1)6月の巡回調査では温州みかんでは少発生、中晩柑類では平年並の発生となっている。
- (2)向こう1か月予報によると曇雨天が多いことが予想されることから、密度の大幅な増加はないと予想される。

### 対策

- (1)夏ダニ(6月～8月に発生するダニ)は寄生葉率30%を目安に防除を行う。なお、薬剤感受性の低下を防ぐために、同じ種類の薬剤の連用を避け、周辺作物への飛散防止に努めながら散布ムラがないよう丁寧に防除する。

## 5) カメムシ類

**予想** 発生時期: 平年並 / 発生量: 多  
**根拠**

(1)6月の巡回調査では樹園地での発生は見られていないが、フェロモントラップへの誘殺数は多めとなっている。

### 対策

- (1)果樹を加害するカメムシ類はスギ、ヒノキの毬果などで増殖するため、発生量が多くても被害がでない場合もあるが、台風などによる強風後は樹園地に飛来して加害することがあるので、発生に注意し、防除を行う。

県民の皆様提供する農作物の病虫害防除のための情報です。お気軽にご利用ください。

1. 病虫害防除所ホームページ (こうち農業ネット) : <http://www.nogyo.tosa.pref.kochi.lg.jp/?sid=2016>
  - ①病虫害発生予察月報、病虫害発生予察予報
  - ②病虫害発生予察注意報、病虫害発生予察警報、病虫害発生予察特殊報
  - ③病虫害発生予察技術資料
  - ④新しく問題となっている病虫害 etc.
2. こうち農業ネットサービス\* ※当方で提供する情報の閲覧は無料です (通信料は別途必要となります)。
  - ・携帯電話を使った病虫害関連情報 (どなたでも利用可能です)
    - <http://www.nogyo.tosa.pref.kochi.lg.jp/i/info/> (Iモード)
    - トップメニュー→地域情報→タウンガイド・行政→高知県庁メニュー→農業情報: (ezweb)
    - 四国メニュー→タウン情報・行政→高知県庁メニュー→農業情報: (ヤフー)
  - ①病虫害発生予察情報 (概要)